日本海員組合
日本船舶司厨員協會

合同聲明書

同一産業に従事する労働者が小異を捨て、大同につき一つの産業組
体の結成をなす事は、労働条件の維持改善に付て強力になる事の
必要は之れを理論上より見るも又実際問題としても論をまたない所
の原則のないところであります。
然るにこの分り切った道理が未だ我々の労働運動の上に実現せず相従
ってあるのは悪い意味の二三幹部の野心や無統制や偏見や勢力争い等
の為めに組合員は自らの理解を排撃し階級的連帯や共同闘争や
従って同盟等の分裂主義を口にしながら実は現幹部の利益的(?)な
事業する所謂労働ボスが彼の組に在して居る実状を見るに
つき、今後両組合統一の理想を実現する事の必要を痛感する
次第であります。

大正十五年当時既存の廿三海員団体が互に解体合同して成
るのが日本海員組合であり、それの如き理由に基いたものであり
又かくして創立されたるは実に我国唯一の産業的海上労働者組合たる
日本海員組合が其の後海員共同精神、海陸従一協会等を
合同し従一ある節制と訓練の下に着々と健実有能なる労働
運動を行ない我等の世の理想を実現しつつあることは又之を裏
書きする所であります。
それ実に労働運動本来の態様であり又使命であるのであって
之に於て労働運動の本旨の道は断じて存在しないと言って
も敢て過言ではありません。
今回全日本船舶司厨員協会が同団体の如き小さな単独なる
職業的組合や別の会には産業別同盟的組織たる理想を
実現することは不可能なることであることを各々の過去の苦い経験で在った(?)

法人
財團 協調會